

## 第1回青森県地域の子ども支援ネットワーク会議（平成31年2月25日開催） における委員の主な意見

### 子どもの居場所づくりについて

- 「子ども食堂」＝「貧困家庭」というネガティブなイメージで捉えられてしまいがちであるため、子どもの居場所づくりを行う際は、集まる子どもがいじめの対象にならないよう、十分配慮する必要がある。居場所づくりがネガティブなイメージとならないようにするための工夫として、子どももお年寄りも関係なく地域みんなが楽しく集える居場所をつくるという方法もある。
- 全ての子どもたちが、ここに来ればおいしいごはんが食べられて、いろいろな人とつながり、生きる活力が生まれるような居場所づくりになるようにする必要がある。
- フードバンクの活動や行政が養成する地域コーディネーターによる居場所づくりに期待する。

### 困難を抱える子どもを支援機関とつなぐ上での課題と好事例

- 支援機関が問題を抱えた子どもを確認した際、どのように他の支援機関にアプローチしていけばよいのかということが課題であり、福祉部門と教育部門ではアプローチの仕方が違うので、そのシステムを知ることが大事である。  
例えば、不登校になってしまった子どもの相談について、支援機関から学校に相談する場合は学校の教頭を窓口とすると、教頭から担任につながり、スクールソーシャルワーカーにつなげることができる。
- 三沢市では、月1回開催する要保護児童対策協議会の実務者会議において、教育委員会（学校教育課）児童相談所、保健相談センターの保健師が集まり、情報交換を行っている。ケース検討が終わった後、少し心配な子どもの情報交換も行い支援サービスにつなげている。また、年1回程度、福祉担当が学校訪問し、福祉と学校が情報共有を行っている。  
また、弘前市では学校から子育て支援課へ、そして子育て支援課から子ども食堂や学習支援活動を行うNPO法人へというような情報共有の支援の流れができている。

### 不登校問題と子どもの貧困問題

- 社会経済的な背景が不登校に結びついているケースがかなりあると思われるので、不登校と貧困の問題を結び付けて支援していく必要があると思われる。
- 不登校の子供たちは学校に行かなくてもいいと思っているわけではない、行きたいのだけれども行けないのであり、学校に行かないという時点でSOSが出ているので、その時点で不登校の危機レベルをもっと上げて考えるべきである。